

緑の相談所だより

{4. 5月号 ~1991. 3.31~ 発行・編集 旭川市緑の相談所}



講習会ご案内

▶ 庭の植え方

日時 4月21日(日) 午後1~3時

講師 村田 正一 相談員

(旭川市緑の相談所)

- 内容
- ◇ 庭に植える場合
 - ◇ 鉢に植える場合
 - ◇ 肥料
 - ◇ 剪定の仕方



▶ 春、夏の洋らんの管理

日時 5月12日(日) 午後1~3時

講師 笠原 幸三氏

(旭川洋らん会会員)

- 内容
- ◇ カトレア・デンドロビウム・ファレノプシス・シンビジウム・その他

▶ 龍本園の春の剪定と移植

日時 5月26日(日)

午後1~3時

講師 小島 博昭 相談員

(旭川市緑の相談所)

- 内容
- ◇ 移植時の根のつめ方と、同時剪定について

☆ 知っておくと便利

★園芸用土の手引き

赤玉土=関東地方から産出される火山灰土、盆栽にかかせない用土です。

鹿沼土=栃木県鹿沼地方産。黄褐色、多孔質で軽く、保水力に富む酸性の火山灰土です。サツキ・ツツジ類の用土として多く使用されます。

腐葉土=最上品は常緑広葉樹の落葉を腐熟させたもので他の用土と混ぜて使うと土の固まるのを防ぐ上肥料分の貯蔵庫の役割を果たします。

ビートモス=繊維質が多く乾物量の5倍あまりの水分の保持が可能でそのうえ排水、通気性に富むので腐葉土と同様に鉢用土に混ぜてつかわれます。

いずれの講習会も一般市民の方の参加をお待ちしております。

お申し込み・お問い合わせは・・・

緑の相談所(神楽岡公園)

☎ 65-5553

つくり方いろいろ

▷植物を長い間楽しむために!!

【ハンギング法】

- ① unnecessary 枝や葉を取り除きます。
- ② 植物を種類ごとに分けて小さな束にします。
- ③ 茎の基を輪ゴムで止めて吊るします。
- ④ 7~20日で乾燥します。

▶ 適した花

・スターチス・ノコギリソウ・カスミソウ



【ワイヤリング法】

- ① 花だけを摘みます。
- ② 一輪ずつ針金に通し乾燥させます ※花だけですので早く乾燥し、きれいに仕上がります。
- ③ 7~10日で乾燥します。

▶ 適した花

・ムギワラギク・センニチコウ

↓
・ムギワラギクの花は、花びらに見えますが実は“苞”なのです。生きたままで乾かしても変質せずカサカサしてその色も長い間さめません。☆切り取った花は乾き切ってしまうと収縮し花首に針金を刺してもすぐにとれてしまうので切るときは花首だけ取るようにします。



豆知識

▷ PART II

■ **植物**が根から花や茎へ、水分を運ぶ速度はまちまち。ヒマワリは時速78km、マツは時速180 kmといわれています。

■ **生**存する植物中、最も古い化石の記録をもつイチョウ。1億5000年前栄え、7000年前に急激に衰退しました。

■ **地**球上の木は森林におよそ6600億本。都市公園樹や街路樹、屋敷樹を加えれば1兆本を越すと推定されています。

■ **古**代エジプトで愛された花のひとつが、ヤグルマソウです。その花束はツタンカーメン王の棺からも発見されています。



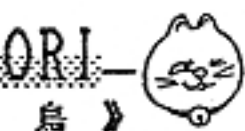
■ **リンゴ**は、早熟、遅熟の両品種を一緒に箱詰めしておく、早熟ガスの発するエチレングスと一緒に成熟します。



MONOMANE TORI

《ものまね鳥》

★林の中から、突然「ニャーニャー」という鳴き声がしてびっくりすることがあります。「おかしいなネコなんていないのに」とおもっているとそのうち「ジャージャー」というにごった声かして正体がわかります。カケスです。カケスはネコやタカなどいろいろな声を上手にまねるのです。なぜものまねをするのかわかっていません。





日増しに日ざしが強くなり温度も上がって雪どけが早まる時期です。庭の仕事もどんどんふえると同時に、庭木類の生育もさかんになり木々の緑が目につく季節でもあります。元気の良い健全な庭木類にはタップリと栄養分をあたえ、これからの生育にそなえる事が大切です。弱気味の庭木類についてはその原因を十分に解明し肥料分を必要とするものには施肥をおこない、早い時期での回復を目指すことが夏場を乗り切るためのポイントにもなりますので良く考えた施肥が大切です。

肥料の種類

肥料にはたくさんの種類があり含まれる成分もそれぞれ異なりますが大別すると◎有機質肥料 ◎化学肥料(無機質肥料)の二つに別れ、庭木用としては有機質肥料である堆肥類が良く、肥効を急ぐ場合には無機質肥料である配合化学肥料を使うと便利です。

肥料成分の三要素と肥効

◇ 窒素

この肥料分の働きはタンパク質および葉緑素をつくるもとになり葉色を増し大きくする働きをします。発芽から成葉形成までに最も必要とする成分です。

◇ 燐

細胞の核タンパク、貯蔵養分をつくり細胞分裂を盛んにし、根、茎葉の分岐あるいは花実を多くします。この成分が不足すると根、茎、葉の発育が悪くなります。あたえ方としては元肥としてつかい堆肥、腐葉土と混ぜてあたえ、花木類あるいは庭木類の生育初期にあたえます。

◇ 加里

細胞の働きを活発にし、糖、澱粉、蛋白質を作ります。この成分が不足すると萎縮、葉先の枯れ、黄変、などの障害がみられるようになってきます。

以上、肥料成分のうちの三要素について述べてきましたが庭木類の肥料としては植物の生育に必要な成分を全部含みしかもバランスのとれた完全肥料といわれている堆肥を使用するのが有効です。堆肥の施肥方法は下図のとおりです。



簡単な青草堆肥の作り方

- ①雑草を刈り取り(雑草の種子が入らない様に注意)半日くらい広げて乾燥させる。
- ②半乾き(水分70%程度)のものを容器につめこみ上から踏みこんで一週間程度重石をのせる。
- ③上から“ビニール”か、“ふた”をのせておくが酸素不足にならない様にスキマを作る
- ④二週間程度で発酵が始まるので一ヶ月に一回くらいは容器から出して切り返しをおこなうと3~4ヶ月で出来上がります。



4月5月の園芸作業

村田 相談員

目

十 春 前 線

= 日平均気温が5度以上になると、多くの植物も休眠から覚めて急速に活動を始めます。平均気温が5度に達した時を早春前線と呼んで植物の成長活動の目安としています。

このころから庭も次第に動き始め、園芸作業も忙しくなります。計画的に手際よく仕事を進めましょう。

本 月 気 温 の 変 化 に 注 意 !!

▶暖かくなると室内の鉢物を外に出してやりますが、つぎの事に気をつけましょう。

- ①今まで室内で柔らかく育っていますから、いきなり外の直射日光に当てると葉焼けしてしまいます。曇りの日か小雨の降る日に出したり、まず明るい日陰に置き、朝日に当て、1週間くらいかけながら次第に日光に当てる時間を伸ばしながら慣らしていきます。
- ②この季節は気温の変化が大きいので、気温の上がり過ぎることがあります。丹念に開閉してむれ、焼けを起こさないよう気をつけましょう。

5月半ば過ぎまでは遅霜の心配があります。年によっては6月に入っても霜が降ることがあります。夕方の気温によっては鉢物を玄関にでも取りこんでおきます。庭植えのものには、ビニールや新聞紙をかけておくとかかなり防ぐことができます。

本 月 花 壇、野 菜 園 の 整 地



雪が消えたらなるべく早く土起こしをし、固まりのまま日光と風にさらしておきます。1週間くらいたってから堆肥かピートモスを混ぜながら土を崩し整地します。

堆肥やピートモスをいれると土に活力がつくので、植物の育ちがよくなります。

本 月 庭 根 草、庭 木、果 樹、花 木 など

庭木、花木等の枯れた枝、折れた枝などを切り取り、枯れ茎、落ち葉なども集めて整理します。4月早々に回りに肥料をばらまいて軽く土にすき込みます。肥料は“油粕・骨粉木灰”などの有機質肥料を主として与えるとよいでしょう。果樹、花木などは多めに・オンコ・マツなどは少なめにほどこします。宿根草には油粕・骨粉を混ぜて30平方あたり一にぎりくらい、果樹、花木は枝が張っている範囲に1㎡当たり200g前後をばらまきます。油粕の代わりに鶏糞でもいいのですが、油粕と同時にあたえないようにします。

スイセン・チューリップ・ヒヤシンスなどの春咲き球根には花が咲いているときから肥料を与えて球根を太らせます。できるだけリン酸、カリ分の多い化成肥料をまいておきます。

★ 園芸市を見て回るのもたのしいものです。苗木を求める時は根がよく張りがっちりとして固く育っているものを選びます。

根 = できるだけ風にあてないようにして、なるべくその日のうちに植えましょう。植え穴は深く広く掘って、堆肥かピートモスをたっぷり混ぜて植えます。深植えにならないよう今までの根元が地面と同じ高さになるようにします。風で揺すられたり、倒れたりしないようにしっかりと支柱を添えて置きましょう。

庭に植える場合、やがて木が大きくなった時を考えておかないと困ることがあります。場所、回りの広さを考えて植えましょう。